（公社）兵庫県建築士会　姫路支部会報

姫路支部だより 8

HIMEJISHIBUDAYORI

2016 August No. 15

Contents.

1　7月の活動報告
　8月の活動予定
2　活動報告
　全国女性建築士連絡協議会
4　事業予告　建築家講演会
5　姫路建築探訪

表紙写真　魚吹八幡神社
（姫路建築探訪より）

7月の活動報告

7. 4（月）ものづくり体験講座（ものづくり体験館）

7. 7（木）ものづくり体験講座（ものづくり体験館）

7.20（水）第15回環境デザイン研修会（姫路建設会館）

7.21（木）ＣＰＤ認定講習会
第４回構造学習会（姫路建設会館）

7.28（木）ＣＰＤ認定事業
第４回建築相談（姫路市役所）

8月の活動予定

8. 6（土）納涼懇親会（ラヴィーナ姫路）

8.17（水）第16回環境デザイン研修会（姫路建設会館）

8.18（木）ＣＰＤ認定講習会
第５回構造学習会（姫路建設会館）

8.24（水）模型講座（ものづくり体験館）

8.25（木）ＣＰＤ認定事業
第５回建築相談（姫路市役所）

■建築士試験試験監理員派遣事業報告

二級建築士試験試験監理員　姫路支部スタッフ７名

一級・木造建築士試験監理員　姫路支部スタッフ９名

28.7.　3 二級建築士試験　神戸市外国語大学
　受験者数 1024 名の内、欠席者 193 名でした。
28.7.　24 一級・木造建築士試験　神戸市外国語大学
　一級 1247 名受験予定の内、979 名の出席でした。
姫路支部皆様のサポート有・・無事に終了しました。
（報告　小寺副支部長）

活動報告　H28 年度　第 26 回全国女性建築士連絡協議会　　報告：森澤 理恵子

「未来へつなぐ居住環境づくり」 ～日本の暮らし　豊かな生活文化の再発見～
日　時：H28 年 7 月 22 日（金）・23（土）
会　場：奈良女子大学講堂　，　奈良春日野国際フォーラム甍・甍能楽ホール

第 26 回となる全校女性建築士会連絡協議会が、7 月 22 日、23 日の二日間、奈良県にあるなら女子大学と奈良春日野国際フォーラムをメイン会場として、361 名の参加により開催されました。兵庫県からは 7 名、姫路支部から 2 名が参加しました。

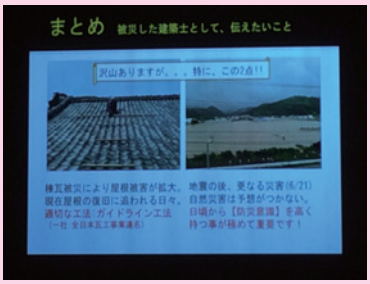
＜全国委員長会議＞　10：30 ～ 12：30
毎年、当日に、全国 47 都道府県の女性委員長（部会長）が集まり、活動報告や、次回の開催についてなど、会議をされています。H29 年度は、東京で開催されます。

【7 月 22 日】
＜開会式＞　　13：00 ～ 13：20

＜基調講演＞　13：20 ～ 15：55
「日本の暮らし　豊かな生活文化の再発見　―　女性の力で「発見」から「創造」へ　―　」と題して、岐阜大学名誉教授・工博の渡辺光雄氏にご講演頂きました。

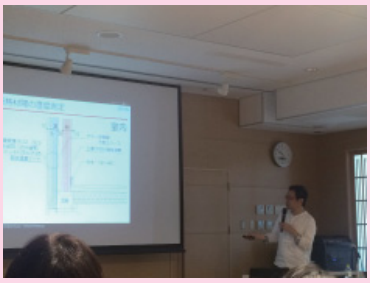
＜パネルディスカッション＞　14：25 ～ 15：55
「日本の暮らし　豊かな生活文化の再発見」をテーマに、コーディネーターを連合会女性委員長、パネリストとして、大学名誉教授や、大学院生、管理建築士、理学療法士など 4 名の方を向かえ、「日常と畳の暮らし（和式生活）」、アンケートなどにより、お話を頂きました。

＜被災地の現状報告＞　16：05 ～ 17：25
これは、2011 年「東日本大震災」があってから、毎年、報告を行っています。
着実に復興へ向けて進んでいますが、課題も多い。
そして、数ヶ月前に起こった「熊本地震」の報告も、熊本県建築士会の方々が、とても大変な時期であるけれど、現状を報告をする為、資料を作成し、この大会に参加しましたと、報告頂きました。
（報告者）・岩手県建築士会　・宮城県建築士会　・福島県建築士会
・茨城県建築士会　・熊本県建築士会



＜交流会＞　18：30 ～ 20：00
場所を「ホテル日航奈良　飛天・桔梗の間」に移して、202 名の参加で交流会が行われました。ゲストとして、「せんとくん」が登場！クイズや歌など、たくさん見所があり、お料理もお酒もとても美味しく、皆さんと交流が出来ました。

【7 月 23 日】
＜分科会＞　9：00 ～ 11：20
毎年、下記の８つの分科会に分かれ、司会者による進行、コメンテーターによる活動報告、質疑応答と意見交換会が行われています。２時間半あるものの、毎回、時間が足りなくなるほどの、意見交換が行われ、とても活発な分科会です。
・Ａ分科会「防災への取組み」
・Ｂ分科会「エネルギーと暮らし」
・Ｃ分科会「歴史的建造物と建物再生」
・Ｄ分科会「環境再生住宅～住み継ぐ～」
・Ｅ分科会「景観まちづくり」
・Ｆ分科会「子どもと住環境」
・Ｇ分科会「高齢社会と福祉住宅」
・Ｈ分科会「二地域住居の提案」



私が参加したＢ分科会の趣旨は、「制定から 20 年近くが経った次世代省エネルギー基準。国は 2020 年までに、新築住宅・建築物について省エネ基準への適合を義務化する指針を示している。住宅の省エネ化が進み、全国で画一的な長期優良住宅が増える中、京都の気候、風土、文化に根ざした京町家の知恵を加えた環境配慮住宅を知り、暮らしの文化の継承者である子供たちへの啓発活動を聞き、これからのエネルギーと暮らしのあり方について、意見交換」というものでした。

コメンテーターに京都府建築士会の２人。
お一人目は､｢隣地が間近に迫る敷地で､いかに自然エネルギーを取り込むか｣｢省エネルギー住宅を設計したけど、本当に省エネになっているのか？｣｢省エネ義務化になると、伝統的な土壁は使えなくなるのか？｣など実際に建てられた住宅を実例にお話頂きました。
お二人目は、｢平成の京町家コンソーシアム「あつ～い夏を涼しく過ごそう！」という小学生親子向け講座のお話でした。実際の家の中で、住宅の風通し、蚊帳張り体験、打ち水体験、氷柱のタライに冷やした「冷やし飴」など、夏を涼しく過ごす方法などを楽しく体験できるようでした。

この後の意見交換会では、全国大会ならではだと思うのですが、自然エネルギーを取り込むことについても、地域によって、大きく考え方が変わってくることを知りました。

＜全体会＞　11：45 ～ 12：20
　各分科会の報告があり、全体の総評、平成28 年度全国女性建築士連絡協議会アピール、全国大会大分大会参加の案内がありました。

＜大人の修学旅行～エキスカーション～＞　13：00 ～ 17：00
　８コースを数班に分かれ、178 名が参加しました。
　私が参加したのは、「４コース　美術館への旅」でした。
パークホテルで「萬佳なごみ膳」を美味しく頂き､｢大和文化館｣→｢旧佐伯邸（村野藤吾設計）｣→｢松柏美術館｣と３ヶ所､バスで回りました。
快晴のお天気だったので、バスでよかった･･と最初に思いました（笑）車中からも右左とたくさんの建物を紹介頂き、奈良の町を眺めました。

この「全国女性建築士連絡協議会」では、全国の方々とお話することが出来ます。
たくさんの全国の情報を集めることも出来るので、毎回参加しておりますが、とても有意義な大会となっています。
詳しい報告は、兵庫県建築士会女性委員会のホームページにアップされると思います。ご興味ある方は、覗いてみてください。

（公社）兵庫県建築士会姫路支部
平成２８年度建築家講演会

2016.9.17(SAT)

建築家 青木淳氏講演会

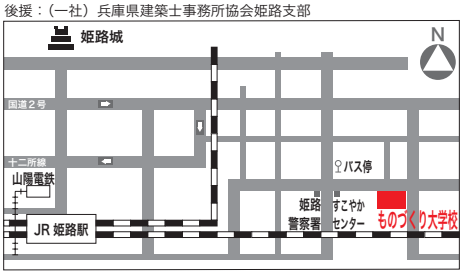
「くくり」の建築

三次市民ホール　きりり

青木淳　Jun Aoki

建築家
1956 年横浜市生まれ。82 年東京大学大学院修士課程修了。83 年〜90 年磯崎新アトリエに勤務後、91 年に青木淳建築計画事務所を設立。個人住宅をはじめ、公共建築から商業建築まで、多方面で活躍。2004 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。代表作に「馬見原橋」、「潟博物館」、「ルイ・ヴィトン表参道」、「青森県立美術館」、「大宮前体育館」、「三次市民ホールきりり」等。
著書「JUN AOKI COMPLETE WORKS 1:1991-2004」「同第 2 巻 :Aomori Museum of Art」、「同第 3 巻 :2005-2014」、「原っぱと遊園地」、「原っぱと遊園地 2」「青木淳 ノートブック」他。

２０１６年９月１７日（土）
１４：３０〜１６：３０（１４：００開場）
入場無料（定員１３０名　当日先着順）
会場：兵庫県立ものづくり体験館
主催：（公社）兵庫県建築士会姫路支部（お問合せ 079–222–7126）
共催：兵庫県立ものづくり大学校
後援：（一社）兵庫県建築士事務所協会姫路支部



兵庫県立ものづくり大学校（姫路市市之郷１００１番地１）
神姫バス 「すこやかセンター前」下車徒歩すぐ

名　称：魚吹八幡神社（うすきはちまんじんじゃ）
所在地：兵庫県姫路市網干区宮内 193

【概　要】

魚吹八幡神社は「津の宮」とも呼ばれる、播磨の沿岸部に点在する石清水八幡宮の別宮の一つで、神功皇后に由来すると伝承する古社であるが、天正 4 年 (1576) の戦火で古記録等が失われ、詳しいことはわからない。文化元年（1804）刊の『播州名所巡覧圖絵』巻之四の「網干宇須幾津八幡宮」の絵がほぼ現状と同じ本殿が描かれているので、江戸時代後期は現在の社殿と同規模であったことが確認できる。
現在の本殿は正保 2 年（1645) の再建と伝えられており、小屋組等の状況からその頃のものと考えて良いと思われる。身舎の飛檐垂木の反りも時代相応である。
意匠は特徴が多い。まず目に付くのは身舎の三手先組物である。和様だから尾垂木は三手先を支える一本だけを出すが、その端は上端を前に出して繰形をつけて唐様風につくる。またその上の三手先の中央に木鼻を出す。
向拝の柱の面は大きな唐戸面に造る。またその柱の天端は正面の虹梁状頭貫の鼻は手の込んだ獅子鼻としているが、正面と背面の二方は繰形付きの拳鼻と簡略化している。なお中備の蟇股や手挟は本格的なものである。この向拝は軒唐破風に造るが、唐破風の範囲が向拝柱間で納まる珍しい扱いをしている。そのために身舎正面の柱間の飛檐垂木を向拝柱通りで止め、その外側の向拝の支外垂木になる垂木を三軒として打越しているが、これも特有の手法である。
身舎の外陣は中央の桁行きの柱を黒漆仕上げとするが、梁行側の面を円弧ではなく垂直に仕上げる珍しい形状に造っている。この通りの頭貫には御簾を釣る金具が残っているので御簾を釣って結界したことがわかる。内陣前の袋戸付きの前棚が赤漆仕上げにするが、内陣扉が素木のままであり、外陣柱の黒漆とも一致していない。祭祀のあり方と関連するのかも知れない。なお身舎の正面の扉や外壁の板が取り替えられているのは惜しいが、正面中央の桟唐戸は現状よりやや小振りの内開きであったことが釣元や板擦れなどからわかる。正面左右の蔀戸は神社本殿正面によくある半蔀でなく一枚戸で、現状は後補であるが、当初と意匠が大きく異なるものではなかったようである。
身舎外回りの中備の蟇股の一部は後補であるが、これはかって盗難に遇い、たまたまその多くは買い戻せたが、一部取り戻せなかったものを痕跡によって意匠を合わせて後補したものである。
全体としてまとまりのよい優れた意匠が用いられているが、部分的に珍しい手法が見られる。これは建立時期が江戸時代前期であるので、江戸時代中期のように規矩術がまだ普及していなかったために、建築の生産過程が規矩という約束事で決められておらず、大工個々の独自性が残っていた結果ではないかと考えられる。
播磨における江戸時代前期という遺構の少ない時代の建築であり、神社本殿としては規模が大きく、保存状態も比較的良好である。
姫路市文化財課ホームページより

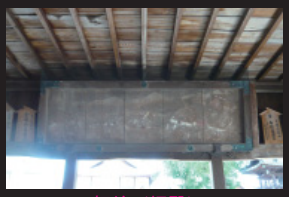
楼門（ろうもん）附修理棟札 2 枚
昭和 54 年 3 月 20 日　県指定文化財

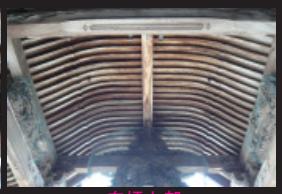
本殿（ほんでん）
平成 22 年 3 月 29 日　市指定文化財

拝殿（東面）

拝殿（西面）

板絵（拝殿）


板絵（拝殿）


向拝上部

拝殿（はいでん）

摂社 敷島神社本殿
（せっしゃ　しきしまじんじゃほんでん）
昭和 53 年 3 月 17 日　県指定文化財

鐘つき堂

楼門の木彫りの像

【感　想】

『魚吹八幡神社』の『楼門』横にクルマを停める。待ち人来ず…　約束の集合時間より少し早く着き車中のバックミラーで待ち人を確認する間も夫婦、親子、子供の集団、学生の集団、若い女性と引っ切り無しに参拝者の姿がミラーに映る。地域にしっかりと根付きこの神社が生活の一部になっているなぁ　と思っていたところに待ち人登場！

「町の中にある神社は初めてだなぁ」と、福岡さんと話しながらまずメインの『楼門』を見学。
「大きいなぁ！」　と声が出る。何度かこちらの神社には訪問したことはあるが改めて『楼門』を正面から見ると、その大きさに圧倒される。見学中にもお祓いのワン BOX カー、宅配便トラックなど大型の自動車がこの『楼門』を潜っていく。
これだけの大規模な『楼門』に、道路側に右大臣と左大臣が、境内側に狛犬２体と計４体の由緒ある木彫りの像が鎮座している様は圧巻である。
さすがに播州地区では最大の氏子数を抱える神社の『楼門』だけあり、良い仕事が行われていて彫刻や格子など丁寧に細工されているし、バランスも凄くよく、しっくりくるデザインであると感じた。
少し資料を見てみると【構造手法は古制を踏み正規の方式】とある。やはり、正統派の建築物は美しいと改めて思わされた。

広い境内の市の文化財指定になっている『本殿』に向かっていく、お祭りが盛んなためか『拝殿』も大規模なものとなっておりその奥に『本殿』があるためその姿は左右と後ろ姿しか見られなかった。
この『本殿』もかなりの規模である。軒裏の垂木など美しい姿である。

今回は『楼門』と『本殿』の見学がメインと考えていたが境内を歩いていると、『本殿』の背後にこじんまりとした神社が目に付いた。
『魚吹八幡神社摂社敷島神社本殿』である。因みにこれも県指定の文化財である。
やはり、『魚吹八幡神社本殿』が大規模な為かなり小さく見えると言うよりも、実際にも小さい。
が、気になる姿！存在感というより石の上にちょこんと佇む姿が品が良くて目立つといった方が良いか？
神社のお手本の造形というか、小さくても丁寧に造られている為に、「この神社美しい！」と思わせるのかもしれない。
裏側に周ると床下などの細部まで見ることができる。江戸初期の建築と事前に調べているが、当時のままの姿でここに存在していると思うと床板の節の穴も神々しく思えてくる。

因みにこの敷島神社本殿は正保 2 年（西暦 1645 年）で今から 371 年前に建築されたものである。
毎回、古建築を見学しながら考えることは現在建築されているもので 100 年、200 年と残る建築物がいくつあるのだろうということである。
宗教的な建築物で文化財という特別な環境にある建築物とはいえ、これほど小さな規模の建築物で子孫にきちんと文化を残していく建築物を、現在、建築に携わる人間（日本人）の手で何棟造り出されているのだろうか？
などと偉そうなことを思っていてもできない、否！何もしていないジレンマを今回も現地に残したまま大きい『楼門』を潜り網干を後にした。

追記：本文にも書きましたが見学中に何人もの人々が参拝に訪れる光景を目にしました。日本人の心は確実に受け継がれていると言うことを実感しました。
　　また、この地域はお祭りの盛んなところ、社務所には屋台（神輿）が飾ってあります。建築物とは違った装飾美を堪能できます。